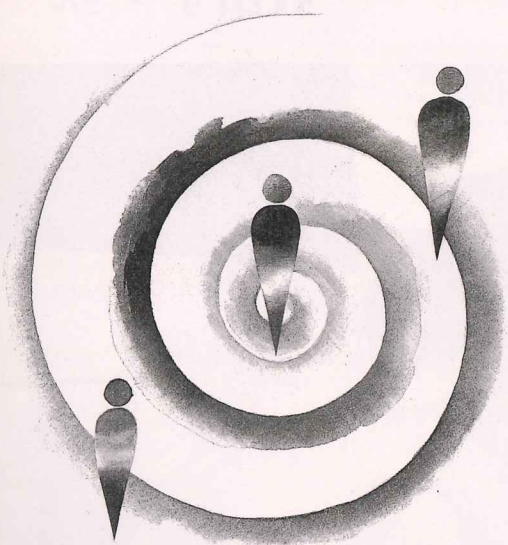


妄想のある 独居の高齢者に どうかかわっていくか



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。(検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきます)

●事例提出者

Aさん (在宅介護支援センター・社会福祉士)

●クライアント

Gさん 女性、75歳

既往歴：妄想、白内障 (平成14年に手術)

要介護度：要支援

体格：中肉中背

家族構成：独居。平成12年に夫が死亡。子どもはいない。両親は亡くなっている。他県に兄が1人いる。兄の娘 (姪) とは、交流がある。

●生活歴

中国地方で生まれ、上京する20歳まで過ごす。上京後、5年ほど企業で働き、25歳で結婚。50歳頃、夫とレストランを始める (他県にて)。15年ほど経営した後、店を閉め、現在の住所に家を新築し、転居 (平成5年)。

平成10年、M氏夫妻と知り合う。

平成13年、夫他界。

平成15年、被害妄想出現。

平成16年、毒物混入の訴えにより、保健所で水質簡易検査 (異常なし)。保健所から基幹型支援センターにつながる。

●居室の状況

乱雑でものが散らかっている。Gさんからは、「壁に毒が塗られている」と訴えあり。

●趣味

俳句 (サークルに入って活動している)

●1日の過ごし方

近くの美術館、図書館にはよく出かけてい

る。趣味の俳句をつくっていることも多い。週に1~2回はMさんの妻がGさん宅を訪問している。

●本人の意向

元親友のCさんから嫌がらせを受けている(毒物混入、盗難、住居侵入)。現在の親友Mさん宅の敷地に自分の新居を建築中だが、住所地は変えないつもり。

●紹介経路と援助内容

基幹型支援センターからの依頼により、かわり始める。同時に、訪問介護(部屋の掃

除等)の利用開始。

●事例提出者が考える問題点

ケアマネジャーとしてかわり始めてまだ1カ月あまりなので不明の点も多いが、現時点では以下のような点をどう考えていくべきか悩んでいる。

- ・本人を認めながら支援をしているが、それが正しいのかどうか。
- ・現在の親友との関係をどう考えればよいか(今後も継続するのかどうか)。
- ・今後、年齢を重ねた際の終末までの生活をどう考えるか。

ケース検討会

野中 ありがとうございます。まだかわり始めて1カ月ちょっとということで、十分に収集できていない情報もあるようですが、事例検討では今のように10分くらいで概要を紹介していただいたほうがいいでしょう。その後、参加者からの質問で本人像を立体化していき、最後に今後の具体的なプランニングをしていくというおすすめ方をします。

ケースの全体像をつかむ(見立て編)

野中 では、今紹介していただいたほかにどんな情報があると、Gさん像がより立体的になる

と思いますか? できるだけ、自分の価値観を入れずに質問してみてください。

家の新築、友人関係について

発言 友人のMさんのお宅の庭に家を新築中ということですが、現在の自宅も築10年ほどしか経っていないのではないですか?

Aさん そうなんです。現在お住まいのお家は、とてもモダンで綺麗なお宅です。家具や調度品なども外国製のものがたくさんあって、非常にすばらしい住宅だと思います。

野中 いくらぐらいかかっているのかな。

Aさん ざっと4000万~5000万くらいはかかっ

ているということですよ。

野中 このあたりでは、そんな家あまりないんじゃないの(笑)。

Aさん ええ(苦笑)。豪邸といってもいいと思います。

発言 そういう立派な家があるのに、どうしてMさん宅の敷地に新しい家を建築しているのでしょうか。

Aさん ご本人の話では、老後の面倒をみてもらうことになっているということです。

発言 Mさん宅とGさん宅はどのくらいの距離があるのですか。

Aさん 車で30分くらいでしょうか。

発言 家が建ったら、生活の拠点を完全に移すのですか？

Aさん いえ、両方の家を行き来するつもりだとおっしゃっています。住所地も現在のところに残したままにするそうです。

発言 Mさん宅の敷地に建てている家の建築費はどうなっているのですか？

Aさん ご本人が500万円を出して、残りはMさんが負担することになっているそうです。

発言 工事は始まっているのですか？

Aさん はい。そろそろ基礎工事が終わる段階まで進んでいます。

発言 そもそも、GさんとMさんはどういう関係なのですか？

Aさん 関係の始まりは、もともとGさんとMさんの奥さんが同じ病院を利用して、待合室で仲良くなったそうです。しばらくは、待合室で会った時に話をする程度のお付き合いだったのが、Gさんのご主人が亡くなった後、町で



偶然に会い、それから急速に仲が深まっていったようです。現在、Mさん宅でGさんの犬を1匹預かっていらっしゃいます。

発言 どうして犬を預かっているのですか？

Aさん かなりの大型犬で、Gさん1人で散歩をさせるのは大変だから、ということです。

野中 Mさんは何歳くらいの方ですか？

Aさん 50代半ばくらいだと思います。

発言 Gさんが被害妄想を抱いているCさんとは、もともとどのような関係にあったのでしょうか。

Aさん Gさんは俳句のサークルとは別に絵手紙のサークルにも入っていて、Cさんはそのリーダー的存在の方です。現在、Gさんはそちらのサークルは辞めているのですが、一緒にいろいろなところに出かけたり、かなり仲はよかったようです。

発言 どうしてCさんに被害妄想を抱いてしまったのでしょうか。

Aさん これはMさんの話ですが、二人があまりにも仲良くなりすぎたのがよくなかったのではないかとおっしゃっていました。

野中 どういうことですか？

Aさん 仲良くなりすぎて、CさんはGさんの家の中を自由に行き来していた。それで、Gさん本人のしまい忘れかもしれないけれど、たまたまCさんが遊びに来て帰った後にモノがなくなったということで、Cさんを疑うようになったんじゃないかと——。そんな話をMさんはおっしゃっていましたが、Gさん自身は、別の話をされていました。

野中 どんな話ですか？

Aさん 実は、絵手紙のサークルの先生のような方からGさんが非常にかわいがられるようになったので、Cさんは自分に嫉妬しているに違いない、とおっしゃっていました。

生活歴、本人の人となりについて

発言 Gさんご本人の経済状態は？

Aさん 経済的にはかなり裕福だと思います。額まではわかりませんが、かなり貯蓄があるようですし、年金もあります。

発言 Gさんご主人は、どんな仕事をされていたのですか？

Aさん レストランを始める前は、企業の重役だったとおっしゃっていました。

発言 レストランを閉めた後、なぜ他県から今の住所に移ってこられたのですか？

Aさん それで、これといった理由はないようなんです。「景色がよかったから、ここに住もうと思って」とおっしゃっていました。

発言 ご主人が亡くなった平成13年以降、ひとり暮らしということですね。

Aさん それで、現在のお宅には、レストラン時代にお店で働いていた女性と一緒に暮らしていたようなんです。

野中 その人はどうしたのですか？

Aさん ご主人の1年くらい後に亡くなられたそうです。どうも、それから不安になったようなんです。「同居人が亡くなった時のほうが落ち込んだ」とおっしゃっていました。

野中 なるほど。それで夫の死から被害妄想の出現までに間が空いているのですね。

発言 きょうだいや親戚は他にいないのですか？

Aさん 現時点で聞いているのは、お兄さんと姪御さんのことだけです。お兄さんは施設に入所しているようです。姪御さんとは、そこそこ交流があるようです。

野中 姪御さんは何歳ぐらいでしょうね。

Aさん 正確にはわかりませんが、お兄さんのお子さんですから、50歳は過ぎているのではないかと思います。

発言 1日の過ごし方として、美術館や図書館とあります。私が歳を取ってもそういうところには行かないだろうなと思って聞いていたのですが(笑)、もともとそういうところになじみのあるような教育や育ちをしてきた方なのでしょうか？

Aさん ご自宅が比較的美術館や図書館から近い地域にあることも関係していると思いますが、やはり育ちやこれまでの生活の影響が大きいと思います。趣味の俳句のサークルは、県内

でもレベルが高いことで知られていますし、ご自宅にも文学関係の本などがたくさんあります。もともと知的レベルの高い生活をされていたのだと思います。

病気について

発言 ご本人は、ご自分の病気についてどう認識されているのですか？

Aさん いちど本人が先生に直接聞いたところ、「妄想だと思う」と言われたそうです。ですので、病名はご存知です。

野中 そのドクターは何歳ぐらい？

Aさん 60歳前後です。

野中 ベテランですね。こういうケースはたくさん経験しているでしょうね。

発言 服薬の状況はわかりますか？

Aさん リントンが0.5mg処方されていますが、ここのところしばらく受診もしていないようですし、薬も服用していないのではないかと思います。

野中 統合失調症だと10mgぐらい使ったりしますが、老年期妄想症とすれば、0.5mgで効く人もいるし、効かない人もいます。順当な処方の方だと思います。

発言 Gさんの部屋は調度品は高価だけれども雑然としているということですが、服装のバランスなどはどうですか？

野中 いい質問です。

Aさん 身なりはいつもきちんとされています。髪は少しパーマをかけて整っていますし、姿勢もいいし、歳よりもずっと若く見えます。

野中 町で会ったら、どういう印象を受けます

か？

Aさん 一言で言うと「上品」ですね。

野中 服のTPOはどうですか？

Aさん 問題ないです。

野中 家の中は雑然としているけれど、服のTPOはきちんとしている。この矛盾が特徴的ですね。もし統合失調症なら、どちらも乱れているはずなんです。その点からも、この人は統合失調症ではないだろうという推測ができます。

発言 Mさんは、Gさんとの付き合いについてはどう考えているのでしょうか？

Aさん 私もその点は気になっていたのですが、電話でMさんにお伺いしたところ——まだMさんと直接お会いしたことはないのですが——淡々としていらっしゃいました。「犬は確かに預かっています」「警察からも問い合わせがありました。ウチが緊急連絡先で間違いありません」とおっしゃっていました。

発言 Mさんは現在、どんなかわりをして居るのですか？

Aさん 週に1～2回、Gさんのお宅を訪問して、「風呂に毒がある」と言われれば、お風呂を洗ったりしているそうです。

発言 MさんがGさんの老後の面倒をみるようになるまでには、どんな経緯があったのでしょうか？

Aさん そこまでは聞いていません。

具体的な対応策を考える(手立て編)

野中 まだかわり始めて時間が経っていないので、情報的にも空白がありますが、とりあえ

ずここまでのやりとりでGさんのふだんの暮らしぶりやMさんのかかわり方がおぼろげに見えてきました。

では、このケースに対して今後、どのような手立てを取ることが考えられますか。具体的に挙げてみてください。

生活史、経済面のチェック

発言 現在被害妄想が出ている相手であるCさんから、Cさん側の見方を聞くことも大事ではないかと思いました。

野中 たしかに、大事ですね。では、誰が聞いたらよいでしょう。

発言 ケアマネでも聞けるとは思いますが、万が一ケアマネがそうした動きをしていることがGさんにわかると関係が悪化するかもしれないので、民生委員などをお願いするのがベターかなと思います。

野中 それでいいと思いますよ。民生委員はちょうどいいポジションでしょうね。

ほかにはどうですか？

発言 現在の緊急連絡先はMさんでも、ご本人に何かあった時などはやはり親族の方に出てき

ていただくのが一番だと思いますので、お兄さんや姪御さんの連絡先などを聞けるとよいのではないかと思います。

Aさん 今はまだ教えていただけていませんが、今後関係をつくっていくなかで聞きできればと思っています。

発言 家族との関係でいえば、なぜGさんが妄想を抱くようになったのか、もしかするとご主人との生活のなかで抑圧されていたとか、過去の生活に何か原因となるようなものがあったのではないかという気もします。Gさんをより深く理解するためにも、生活歴を聞くことも大事かなと思いました。

野中 たしかに、生活史に関してはまだ抜けているところが多いですよ。

Aさん はい。

発言 生活史とも関連するのですが、私は経済面が気になりました。Gさんはリタイアしてから4000~5000万円出して家を新築し、さらに今回もう1軒新しく建てています。本当にこれからの生活が心配ないほど裕福なのかどうか。生活基盤をもう一度確認したほうがいいのではないかと思います。

野中 とてもいい着眼点ですね。おっしゃるように、本当に蓄えがあるかどうかはわからないですよ。少なくともここ10年ぐらいの間に5000万円くらいは出費をしています。本当は経済的な不安があるのだけど、プライドがあるのでお金の心配を公的なとこ



ろにもっていくことはできない。だけど、毒の話ならもっていきける。そういう可能性はあります。

Aさん なるほど――。

Mさんとの情報交換

野中 ほかに、いかがですか？

発言 まだMさんとお会いしていないということです。直接Mさんにお会いすることが大事ではないでしょうか。

野中 直接会って、どうしますか？

発言 お互いがもっている情報を交換したり、Gさんの今後の生活に対する協力意向や思い、病気に対する認識などを確認する――。

野中 どうですか、Aさん。

Aさん はい。ぜひお会いしたいと思っています。ただ、病気に関する認識という点では、Mさん自身もGさんが妄想を抱いていることはわかっています。その点は私も心配だったので、電話でお話した時に確かめたのですが、「それ以外のことについてはしっかりされていますから」とおっしゃっていました。

野中 それで、「毒がある」と言われたところは、「はいはい」と洗っているんですね。

Aさん そうです。

野中 Mさんは、Gさんの妄想について客観的に理解し、肯定も否定もせず対応しているようですね。非常にいいポジションの取り方をしているんじゃないでしょうか。

妄想の本質は何か

発言 ただ、Mさん自身が妄想の対象になるこ

とはないのでしょうか。それと、近所には妄想のことで迷惑をかけたりしていないのかどうかも気になります。

野中 なるほど。Gさんは近所に迷惑をかけていますか？

Aさん いいえ、そういうことはまったくありません。今までの説明では、なんとなく激しい方のような印象を与えてしまったかもしれませんが、実際はそういうことはありません。Cさんに対しても「被害を受けている」とはおっしゃいますが、決して暴力的になることはないし、「あの人は私のことをうらやましがっているのよ」ととても穏やかに話されます。

野中 毒のことやCさんのことなど、確かに妄想はある。だけど、近所に迷惑をかけたり、行動化はしていない。そこがこのケースの一つのポイントでしょう。問題は、行動化するかどうかなんです。妄想はいくらもっていてもいいんです。人間は、誰だって少なからず妄想を抱きながら生きているんですから。「あの娘はオレのことを好きに違いない」、これも立派な妄想です（笑）。要はそれが行動化するかどうか、その1点を見ることが大事なんです。

このケースは、典型的な老年期妄想症でしょう。高齢者ケアの仕事に従事していれば、必ずぶつかるケースです。訴えとして多いのは、Gさんの場合のように毒物の混入ですね。あとは性的な妄想。天井や窓から男が侵入して犯していく。こういうパターンが多いです。特徴的なのは、概して情熱的で活動的だった独身女性に多いことです。若い頃から華々しい活動をしてきて、実力もあるしプライドも高い。だからこ



そ、歳を取っていろいろなことができなくなってきた時に、他人に気軽に相談したり、依存したりすることができない。こういうタイプの人
が孤立した場合に、被侵入妄想が起りやすい。時に、後になって痴呆が顕在化してくる事例もあります。元教師とか、元保健師とか
(笑)。ケアマネも危ないかもしれない(笑)。でも、一番危ないのは大学教授かな。私も気を
つけないと(笑)。

冗談はともかく、この構造を逆から見ると、「侵入してきて困る」と言う言葉の裏には、侵入してきてほしいという気持ちもあるわけです。だから、Cさんに対しても、嫌い嫌いと言
いながら、本当はもっと来てほしいという気持ちもどこかにもっているんだと思います。

発言 たえば、そういう話をドクターにしてくださいというのはいかがでしょう。

野中 これからそれを言おうと思っていたんですよ(笑)。いま説明したような老人性の被侵入妄想の特徴を精神科の先生に説明していただき、チームで知識を共有する。そのうえで、こ

の孤高のおばさまにどう接すればいいかを考えていくことも、大事な取り組みだと思います。

発言 その際、妄想の原因を追究する必要はないのでしょうか？

野中 先ほど話に出たように、もう少し生活歴や経済状況に関する情報を押さえたほうが、Gさん像がより立体的になりますよね。ですから、そうした観点からの情報収集は必要だと思います。また、

Gさんの過去の対人関係の取り方を知ること
は、依存下手の度合いを知ったり、援助者側の距離の取り方を測る上でも重要な情報でしょう。ただ、注意しなければいけないのは、こういうタイプの方の場合、少しでもこちらが「援助をしてあげる」といった様子を見せると——あるいは、向こうが感じると——「なんで、あんたなんか
に助けてもらわなくちゃいけないのよ！」と蹴飛ばされる可能性があります。

それと、もう一つ、この方の場合、白内障の手術を最近していますが、これも妄想を引き起こしやすいものの一つです。白内障でぼんやりしか見えなくなってきた、高齢のために短期記憶も悪くなってくると、要らぬ考えがわいてきたりします。ご主人や身内のように親しくしていた人が次々と亡くなり、社会的にも孤立して、身体的にも老人性の感覚器障害が少しずつ出てくる——。そういう意味では、Gさんのおかれている状況は、妄想の起きやすい条件がそろっていたといえるでしょうね。

インフォーマル資源との協働

野中 Aさん、ここまでのところで何かありますか。

Aさん 生活歴を知るためにも、姪御さんの連絡先を知ることは大切だと思うのですが、Gさんにお聞きしても、「私の老後のことはMさんにまかせてある」の一点張りで、どうしても教えてもらえないのですが――。

野中 すぐには難しいでしょう。まずは、Mさんと関係をつくって、Mさんにも援助者チームの一員になっていただくことが先決でしょうね。むしろ、MさんのGさんに対する距離の取り方や接し方から専門家チームが学ぶことも多いと思いますよ。きっとGさんが付き合いたいと思うような知的な雰囲気があるのでしょうし、妄想には決して触らず「それ以外のところはしっかりされていますから」と言って、具体的な支援に徹していますよね。この距離感を関係者が共有することが大事なんじゃないでしょう

か。そして、Mさんにケアマネジャーの仕事の内容や目的を理解してもらえれば、「姪御さんとの連絡はケアマネジャーさんにやってもらったほうが良いと思うわよ」とGさんに助言してもらうことが可能でしょう。

Aさん なるほど――。

野中 そして、姪御さんと連絡がとれるようになったら、姪御さんにもぜひGさんの妄想のメカニズムやMさんの立場などを理解してもらうことが大切ですね。姪御さんがMさんを誤解してしまったら、Mさんが傷つきますから。

Aさん はい、わかりました。

野中 だいたい今日のところは、こんなところでしょうか。Aさん、いかがですか？

Aさん ありがとうございます。このケースでは、なるべく妄想に引きずられないように接しようと考えていたのですが、今から考えると、やはりご本人の妄想にこちらがとらわれていたと思います。皆さんに検討していただいた

おかげで、経済状況の確認の必要性や具体的支援に徹することの重要性、Mさんとのかかわり方など、たくさんのヒントをいただきました。今日の検討を明日からの援助に生かしていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

